# 国語の学び方に関する
# ブックリスト

## 学習に自信を持てる裏ワザ（国語編）

※資料は貸出中の場合があります。

**『語彙力こそが教養である』**　齋藤孝著　KADOKAWA　2015 年 12 月刊
　テレビでもおなじみの著者が、語彙力の大切さを分かりやすく解説しています。私たちの日常がいかに少ない語彙で生活している事か！子どもたちに豊富な語彙を引継ぎませんか。

**『ごんぎつね』**新美南吉作 黒井健絵　偕成社　1986 年９月刊　ほか出版
**『一つの花』**今西祐行文 鈴木義治絵　ポプラ社　1982 年８月刊　ほか出版
　両方とも小学校四年生の教科書に載っている作品です。子ども向けのおはなしですが、もう一度読んでみませんか。

**『頭がいい子の家のリビングには必ず「辞書」「地図」「図鑑」がある』**
　小川大介著　すばる舎　2016 年３月刊
　生活のメインスペースであるリビングに、ことばを調べる辞書と、世界を広げてくれる地図と、ビジュアルにいろんなものを見せてくれる図鑑を置いて、家族みんなで楽しみながら子どもの学力を伸ばそう！という一冊です。楽しみながら学力を伸ばしたいとは誰もが望むところですが、このやり方はいかがでしょうか。

**『中学受験「国語嫌い」は親が救う』（中公新書ラクレ）**
　早川尚子著　中央公論新社　2012 年 11 月刊
　文章を自由に楽しむ「読書」と、文章の内容を正確に理解する「読解」は違うため、本を読むだけでは読解力は養われません。文章の内容を正確に把握し、また行間を読む力をつけることによって国語を楽しめるようになります。読解力をつける方法を具体的に提案する本です。

**『国語教科書の思想』（ちくま新書）**　石原千秋著　筑摩書房　2005 年 10 月刊
　テキスト論という文学研究のジャンルの方法を用いて、小・中学校の国語教科書にどんな思想が隠れているかを探る…というといかにもカタそうですが、“今の国語教育は道徳教育にかたよっていて、批判することを学ばせていない”という主張が明確にされています。国語教育そのものを考える手がかりとなる一冊です。

ほかにも図書館にはたくさんの資料があります。
どうぞご利用ください！

調布市立図書館公式
キャラクター　じろ